

～ワークで紹介する絵本について～



子どもの心のおくのおくにある
ちいさなおもい…

自我に目覚める2・3歳向絵本ですが、毎日子育てにがんばりすぎている保護者の気持ちをふっと軽くするヒントが詰まった絵本です。

一人の人間を育てる…人としてこれ以上の能力と努力を要求される仕事はありません。だから「親」ではなく「親業」。でもちょっとしたコツを知れば親業はやさしくなるのです。

【あらすじ】

「どうせいじわるをしたんでしょ。はやくあやまっちゃいなさい」仲良しのたっくんと喧嘩したメグちゃんに、ママは言いました。「他のお友達と遊んだら？」パパは言いました。「仕返しすればいいんだよ」お兄ちゃんも言いました。どれもメグちゃんの気持ちとは違ってきます。

でも、おばあちゃんの言葉は、メグちゃんの気持ちにピッタリと当てはまりました。おばあちゃんの耳は【魔法の耳】だとメグちゃんは思いました。「パパやママも魔法の耳を持っている」とおばあちゃんから聞きました。そして、魔法の耳を持っているということを思い出させることができる方法を、おばあちゃんから教わったメグちゃんは、早速やってみました。

その結果……？

～自尊感情について～

人権教育の基本は、「自他を大切にできる心」を育てることに他なりません。幼児期の発達課題に照らし合わせると、子どもの心に「自分は他から大切にされている」という実感を、日々の生活の中で蓄積していくことでしょう。他から大切にされているという実感が、自分は大切な存在であるという自尊感情を高め、そこからもたらされる安定感が他者を大切にできる心、すなわち人権意識の基盤となって、その子どもの生涯に影響を及ぼしていくと考えられます。

自尊感情は、良い面ばかりでなく、欠点をひっくるめてありのまま受け入れ、認めようとしてくれる大人の態度によってもたらされるものですが、これが十分に育まれていない子どもは、他者に対して信頼感を持つことが出来ず、他者を排除したり攻撃的な態度に出がちです。また、ありのままの自分を出すことに自信が持てず、自分の殻に閉じこもるなど、幼児期以降の発達段階にも多大な影響をもたらすこととなります。

山陽学園短期大学（当時） 村中 由紀子 教授

（「人権教育資料集 就学前教育編」より一部抜粋）

「第3次岡山県人権教育推進プラン」（岡山県教育委員会・平成29年2月策定）では、「乳幼児期は、人権感覚の基盤ともなる自尊感情を育てていくことが重要であり、子ども自身が「愛されている」ということを体感できたり、家族一人一人が大切にされているということを感じられたりするような関わりを積み重ねていくことも大切」であるとしています。